

1 がん対策について

長野県議会では、平成19年にがん征圧議員連盟が設立されてから、医療機関や他県の視察を踏まえ、去る28日がん対策推進のアクションプログラム作成にあたっての「いつでも、どこでも、等しくがん治療を受けられる長野県を目指して」とする中間提言書を、知事をはじめ衛生部長に申し上げた。

(1) 長野県がん対策の推進基本計画にかかげる「いつでも、どこでも等しく適切ながん治療を受けられる体制づくり」をどう構築していこうとするのか。

(2) がん予防、がん検診、がん治療それぞれ「県民のがんに対する意識高揚」がなくてはならない。県民意識をどう推進していくのか伺いたい。

(3) がん患者は高額な医療費や遠距離の診断のため、経済的にも厳しい生活を余儀なくされている。また、医療機関では日進月歩で変わる機器をそろえるために経済的不安を訴えている。そんな現状を打開するため、富山県や島根県では基金を作ってがん対策の隙間を埋めている。長野県ではがん基金を設置しようとする意思があるかどうか伺いたい。

(再質問)

(1) 現在県内4つの二次医療圏には地域連携拠点病院がない。がん治療はあくまでも拠点病院と医療圏内の医療機関との連携が第一だと考える。4医療圏の連携拠点病院の整備を急ぐべきと考えるが、この点について伺いたい。

(2) 連携拠点病院同士の連携が足りないように思うが、どのように連携拠点病院の連携充実を図ろうとしているのか伺いたい。

(3) 高度治療の充実から、がん受診率のアップ、がん予防のための食事の普及まで一貫したがん対策ネットワークの整備が必要だと考える。「がん対策推進本部」を創り、人づくりや様々な創造的事例を充実することを提案するがどうか。

2 長野県の目指すべき雇用の姿について

知事は所信表明で、環境など新たな分野での産業育成への取り組みについて述べられたが、時代の大きな就業構造の分岐点に来ているのではないかと考える。また、「今後の県民の働き方」を抜本的に考えなくてはならない時にきているのではないかと考える。

(1) 知事は国際人として多くの諸外国の就業構造の変化を見つめてきた。その豊富な経験から21世紀の「長野県の雇用の目指すべき姿、あり様」についてどのような所見をお持ちか伺いたい。

(2) 先日の技能五輪で、左官職の手塚選手が日本型の左官職と異なる条件下で銅メダルに輝き報告に見えたが、現在の経済下で左官職では生活していけないと話された。県として、残さなくてはならない匠技をどう向きあい、ここに働く人たちをいかに守っていかれるのか伺いたい。

3 国民読書年について

(1) 来年は国民読書年であるが、蛍雪を誇りとしてきた長野県において、「読書をどう位置づけ、どう向かい合うのか」教育委員会では、どのような議論がなされ、どのような方針が市町村や学校現場へ流されてきたのか伺いたい。

(2) 朝、15分の読書の実行を勧めたいと提案するが、どうお考えか伺いたい。

4 社会現象や政治に対する判断力を育成する教育について

諸外国では投票年齢が18歳からというところが多く、日本でもこのごろ議論されている。18歳から選挙権が与えられた時の「社会現象や政治に対する判断力を育成する教育」はどうすればいいのか。平和教育、道徳教育も必要と考えるが、所見を伺いたい。

